

特別支援学級 音楽科学習指導案

1. 単元名 「合奏をしよう」

2. 指導観

○児童観

本学級の児童は、3年生（3名）、4年生（1名）、5年生（1名）、6年生（1名）の計6名男子3名、女子3名で構成されている。広汎性発達障がい、高機能自閉症、知的障がいなどを有する児童である。基本的な生活習慣はある程度身につけているが、個別の対応、環境面や構造面においての配慮が必要な児童である。交流学級で過ごすことが多い。学習面については、個々の実態に大きな差が見られるため、同一教材も内容を工夫することや、実態に応じた個別教材での支援が必要である。会話を楽しむことはできるが、初めての相手や集団の中では思いを伝えにくい場面や、一方的な表現で伝わりにくい所がある。集団での活動には、比較的問題なく、入っていくことができている。しかし、一斉指導の中では集中力が続かず、話を聞き漏らすことが多く見られる。加えて児童は、自分の気持ちや思いを相手に表すことが苦手だったり、恥ずかしがったりする児童もおり、また、友達と協力して何かを成し遂げる経験も少ない。友だちと上手に関われないことが、ほとんどの児童の日常的な課題でもある。

児童たちはこれまでに交流学級での音楽の学習に取り組んでいるが、一名を除いては音楽の基本的な知識や技能はほとんど身につけておらず、楽譜も読めない。また、児童は恥ずかしがって歌えなかったり、リコーダーの指づかいを習得できなかったりなどして、音楽に対して苦手意識をもつ児童もいる。だが、休み時間にはオルガンを弾いたり、歌を歌ったり、音楽に合わせて踊ったり、好きな歌を聴いたり、音楽に対する興味関心が高い。

本学級の児童の日常生活及び、本単元に関する実態は次の通りである。

| 児童 | 個々の実態 | 本単元に関わる実態 |
|-----|---|--|
| A 児 | <ul style="list-style-type: none"> 友だちや教師と会話ややりとりを楽しむことができる。 吃音がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 興味をもって音楽を聞くことができる。 楽譜は読めないが、音楽を聞くだけで即興的に伴奏をつけることができる。 主体的に学習に取り組むことができている。 |
| B 児 | <ul style="list-style-type: none"> 友だちを気遣う姿がよく見られるが、自己中心的な行動をとってしまうこともある。 自分のしたことや思いを、順序立てて話すことが苦手である。 自分の思いや感情を表に出すことを恥ずかしがる。 | <ul style="list-style-type: none"> 興味をもって音楽を聴くことができる。 歌唱では、恥ずかしがって声を出すことが難しい。 自信がないと、消極的になりがちである。 音階、音の長さ、リズムについてはあまり身につけていない。 |
| C 児 | <ul style="list-style-type: none"> 誰にでも元気よく挨拶をすることができる。 出来事や状況などを相手に説明することが難しい。 人の話を聞いていても、内容を理解していない。 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽に対する興味関心が高い。 歌うことが大好きで、大きく口を開けて歌うことができる。 周りの注目を独占しようとしたがる。 |

| | | |
|----|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> いことが多い。 友だちとの関わりが好きであるが、コミュニケーションが一方的で、自己中心的な行動が多い。 細かい作業が苦手である。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習に意欲的に取り組むことができている。 音階、音の長さ、リズムについてはあまり理解できていない。 |
| D児 | <ul style="list-style-type: none"> 大きな音や騒々しい音に、耳をふさぐことがある。 マイペースでのんびりしている。 わからないことがあると、泣き出すこともある。 | <ul style="list-style-type: none"> 大きく口を開けて歌を歌うことができる。 学習に楽しんで意欲的に取り組むことができている。 音階、音の長さ、リズムについてはあまり身についていない。 |
| E児 | <ul style="list-style-type: none"> 人前で発表することが少し苦手である。 自分の要求は、単語で伝えることが多い。 自分の意が通らないと泣き出したり、怒ったり、活動をやめたりすることがある。 | <ul style="list-style-type: none"> 歌うことは好きだが、人前で歌うことは少し苦手である。 以前は音楽に無関心だったが、興味をもって学習に取り組むようになってきている。 音階、音の長さ、リズムについてはほとんど身についていない。 |
| F児 | <ul style="list-style-type: none"> 自分で決めていることにこだわる。 失敗や間違うことがいけないという思いがある。 分からないことを分からないと相手に伝えることが難しい。 相手の思いを考えて、人と関わることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 恥ずかしがり屋で、歌うことを苦手としている。 学習に楽しんで意欲的に取り組むことができている。 音階、音の長さやリズムについてはほとんど身についていない。 |

○単元観

音楽の学習では、歌唱、鑑賞・合奏、音楽づくりを通して、音楽に対する興味関心を深めるとともに、音楽的な表現や鑑賞の活動を楽しむことを通して、情緒の安定を図ることをねらいとしている。また、児童の心情面等の成長を促すことや将来の余暇活動の充実につながっていくと考える。

そこで、本単元「合奏をしよう」では、音階や音の長さ、リズムなどといった音楽の基本的な知識・技能を身につけ、それらを通して友だちを意識し、適切な関わりがもてるよう本単元を設定した。自己表現活動を促したり、人のかかわりを活発にし、生活の中に音楽を生かしたりできるようになることをねらいとする。児童が取り組みやすいように、聴いたことのある『きらきら星』『かっこう』などの簡単な旋律を用いてある、親しみやすい曲を取り入れることにした。それらの曲は全てハ長調の曲で、学習する音階（ハ長調）のみで演奏できるよさがある。また、使われる音が少ない曲から多い曲へと段階を踏んで合奏を行う。リズム打ちでは、自分でリズムをつくったり、友達のリズムを模倣したりして、リズムを奏でる楽しさとともに、他のパートとの響き合いを感じながら合奏することができるようにする。このようにして、本学級での音楽の学習に取り組むことにより、音楽を通して自ら音を出し表現することや、友達と協力して一つの曲に取り組み、合奏する経験をすることは、児童たちにとって大変意義深いものであると考える。

○ 指導観

本学級での音楽の学習において、歌唱では『今月の歌』を設定し歌ったり、リコーダーの練習を個別に行ったりしている。それらに加え、ブームワッカーやハンドベル等で、自ら音を出す経験を積み重ねてきている。音を出すことについて児童たちは、大変興味をもって積極的に取り組んでいる。

本単元「合奏をしよう」の指導に当たっては、みんなで協力して音を出す喜び、表現する楽しさを味わわせたい。また、リズム打ちを通してリズム感をつけさせ、リズムづくりなどの簡単な創作活動を取り入れることで自らの感性や創造性を表現させたい。

第1次では、音名を知ること、音の順番について理解することを行い、音の担当（パート）を自分たちで決め、簡単な旋律の曲をブームワッカーを使って合奏する。『ドレミの歌』も聞きながら音が階段のように並んでいることを意識させ、曲に合わせて自分自身が音を出すことの楽しさを味わわせる。

第2次では、音の長さについて理解し、第1次の音階に加え、音の長さが増える曲『みつばちマーチ』『きらきら星』をハンドベルを使って演奏する。これら2曲の前には、子ども達に演奏してみたい曲を尋ね、旋律が比較的簡単で、使われる音の少ない曲『メリーさんのひつじ』『かっこう』『かえるの合唱』『チューリップ』などを担当に分けて演奏することで、興味をもってみんなで1曲を合奏できるようにしたい。また、ハンドベルを用いるのは、ブームワッカーよりも音の長さを意識して鳴らすことができるからである。さらに、教師の合図や友達のを聞いたり、譜面を見たりしながら、自分が担当するパートの役割を意識して音を鳴らし、みんなで一曲を合奏することで、音を合わせる喜びや達成感を味わわせる。

第3次では、休符と拍子の組み合わせによりいろいろなリズムができることを理解し、それらを拍子譜に表しリズム打ちを行う。拍子譜が分かりにくい児童には、絵（リズムカード）譜を用いてリズム打ちをする。そして、曲『手のひらを太陽に』に合わせて音楽を表現する楽しさを味わわせたいと考える。曲『手のひらを太陽に』は、全員が知っている歌であり、リズム伴奏のアレンジがしやすい楽曲である。児童たちは、手拍子で自由にリズムを奏でたり、リズムカードを自由に並べて絵譜をつくったりして自分なりの音楽をつくる。思いや意図をもって音楽をつくることの楽しさとともに、友達のつくった音を模倣することで、音楽を通しての友達との関わりを深めたい。

第4次では、今までに学習した合奏の練習をする。その際、楽曲全体を繰り返して演奏するだけでなく、一部分を取り上げ、ゆっくり演奏したり、パートごとに演奏したりするなど、学習意欲が継続するように工夫し練習を行う。また、自分たちの演奏を授業の終わりに録音し、それを児童に聴かせ改善点を話し合ったり、修正したりしながら、次の意欲につなげる。第5次の発表に向けて意欲的に取り組めるようにする。

3. 目標

- 曲に合わせて元気よく歌を歌うことができる。
- 楽譜を見たり、合図や友達の音を聞いたりしながら、みんなと気持ちを合わせて演奏することができる。
- 簡単な拍子や休符をつかって、リズムをつくることができる。
- 音楽に合わせて拍打ちや拍子打ち、リズム打ちをしたりすることができる。

4. 単元の計画（全9時間）

| | | |
|-----|-----------------------|------------|
| 第1次 | 音階について知ろう やってみよう演奏① | 1時間 |
| 第2次 | 音の長さについて知ろう やってみよう演奏② | 2時間 |
| 第3次 | リズムについて知ろう リズムづくりをしよう | 2時間（本時2/2） |
| 第4次 | リズム打ちをしよう やってみよう合奏 | 3時間 |
| 第5次 | 発表をしよう | 1時間 |

5. 本時 平成24年 月 日（ ）

音楽室

（1）本時について

前時までには本学級の児童は、音の順番を理解し、簡単な曲を演奏できるようになってきている。担当する音は自分で選ばせ、主体的に取り組めるようにした。本時では、合図や友達の音を聞きながら自分の担当の音をしっかりと鳴らし、一曲を演奏できるようにしたい。そして、友だちと共に音を鳴らすことを楽しみ、音楽をつくり上げる喜びや達成感、楽しさを味わわせたい。

そのためにまず、導入として毎回の授業で行ってきた今月の歌を歌うことで、学習が始まることを意識させる。使用する曲『手のひらを太陽に』は、リズム打ちの際に使う楽曲でもあり、次の活動へとつながることを意図して設定した。次に、ハンドベル合奏で音階と音の長さの復習を行う。毎時間復習の時間をとることで、既習内容の定着を図るとともに、友達の音を聞きながら合奏する楽しさを感じさせたい。リズムの復習では、前時に出てきた拍子について想起させる。6名が円の隊形になり、自分のつくったリズムを自由に表現したり、友達のつくったリズムを模倣してたたいたりすることで、リズムを奏でる楽しさを味わわせる。そして、前時に学習した拍子と休符を使って自由にリズムづくりをさせる。リズムを工夫し、自分自身の音楽を創り出し、自ら音楽活動をする意欲を高めたい。つくったリズムを互いに聞きあい自他を認め合う活動を通して、表現の能力を身に付けるとなると考える。そして、曲『手のひらを太陽に』の音楽に合わせて自分のつくったリズムを表現する楽しさを味わわせたい。最後に、学習を終えての感想を発表させ、自己の活動を振り返らせるとともに、次時の内容を知らせ、次時への意欲につなげていきたい。

(2) 本時の目標

- 曲に合わせて元気よく歌を歌うことができる。
- 楽譜を見たり、合図や友達の音を聞いたりしながら、みんなと気持ちを合わせて演奏することができる。
- 簡単なリズムを自分でつくることができる。
- 音楽に合わせて自分のつくったリズムをたたくことができる。

| 児童 | 本時の目標 |
|----|--|
| A児 | <ul style="list-style-type: none"> ・曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏することができる。 ・友達と気持ちを合わせて伴奏することができる。 ・簡単なリズムを作り、拍子譜を書くことができる。 ・楽器の特徴を生かして打楽器を演奏することができる。 |
| B児 | <ul style="list-style-type: none"> ・伴奏に合わせて大きく口を開けて歌うことができる。 ・合図や友達の音を聞きながら、自分のパートの音を演奏することができる。 ・絵譜（リズムカード譜）を見て、拍子打ちをすることができる。 ・自分のつくったリズムを音楽に合わせて打ったり、友達のつくったリズムを模倣したりすることができる。 |
| C児 | <ul style="list-style-type: none"> ・伴奏に合わせて、大きく口を開けてやわらかい歌声で丁寧に歌うことができる。 ・合図や友達の音を聞きながら、自分のパートの音を演奏することができる。 ・教師の動きを模倣して、拍子打ちをすることができる。 ・音楽に合わせて自分なりのリズム打ち（表現）をし、友達のつくったリズムをまねることができる。 |
| D児 | <ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせて、音程に気をつけながら歌うことができる。 ・楽譜を見て、自分のパートの音を演奏することができる。 ・拍子譜を見て、拍子打ちをすることができる。 ・拍子や休符を使って簡単なリズムをつくり、音楽に合わせて打つことができる。 |
| E児 | <ul style="list-style-type: none"> ・大きな口を開けて楽しく歌うことができる。 ・楽譜を見て友達の音を聞きながら、自分のパートの音を演奏することができる。 ・拍子や休符を使って簡単なリズムをつくり、音楽に合わせて打つことができる。 ・友達のつくったリズムを拍子譜を見ながら、拍子打ちをすることができる。 |
| F児 | <ul style="list-style-type: none"> ・大きな口を開けて楽しく歌うことができる。 ・友達のつくったリズムを拍子譜を見ながら、拍子打ちをすることができる。 ・拍子や休符を使って簡単なリズムをつくり、音楽に合わせて打つことができる。 |

- (3) 準備 ハンドベル、コンガ、絵譜（リズムカード譜）、拍子譜、音名カード（ど・れ・み・ふぁ・そ・ら・し・ど）、ホワイトボード、ホワイトボード用ペン、ボード用字消し、ホワイトボード用指示棒、CD ラジカセ、歌詞カード（『手のひらを太陽に』）、楽譜（『きらきら星』『みつばちマーチ』）CD（曲『手のひらを太陽に』）、エレクトーン、移動式黒板

(4) 展開

| 過程 | 学習活動と内容 | ○指導上の留意点●個別の支援 |
|----|--|--|
| | <p>1. はじめのあいさつをする。</p> <p>2. 今月の歌を歌う。 『手のひらを太陽に』</p> <p>3. 前時までの復習をする。</p> <p>①音階と音の長さの復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の順番の確認 ・音の長さの確認 ・ハンドベルで、それぞれのパートに分かれて曲『みつばちマーチ』『きらきら星』を演奏する。 A 児はみんなに合わせて即興で伴奏をする。 <p>②リズム打ちの復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した拍子譜や絵譜（リズムカード）を見ながら拍子打ちをする。 ・「タン」「タタ」「ウン」の確認をする。 | <p>○指導上の留意点●個別の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもたせるために、学習の流れを1枚の示しておく。 ○口を大きく開けるよう言葉かけをする。 ○ブレスの位置や長く歌う箇所などを歌詞に書いておく。 ○目で追いやすように指示棒で歌っている箇所を示す。 ○ブレスがわかりやすいように、区切って歌詞を書いておく。 ○楽譜には音階名を書いておく。 ○譜面上の二分音符を分かりやすいように四角で囲み、目立つようにする。 ○音名（どれみふあそらしど）のカードは、ハンドベルの色と同じにして掲示する。 ○音の長さに気をつけて演奏できるよう言葉かけをする。 ●自分のしたいパート（音）を選ぶ際に、重なった場合を想定し、別にもう1セットハンドベルを用意しておく。 ●A児には、予め2曲を聞かせておく。テンポが速くならないようみんなの動きを見ながら伴奏するよう言葉かけをする。 ●B児、C児には、音を出す箇所がわかるように、目で合図したり、強調したりする。 <p>○どんなリズムがあったか並べてある拍子譜を見て実際に打たせて発表させる。拍子譜または絵（リズムカード）譜を見ながらリズム打ちするよう言葉かけをする。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>4. リズムづくりをする。</p> <p>①円の隊形になり、一人が打ったリズムを他の子ども達が一斉に模倣してリズム打ちをする。</p> <p>②リズムづくり</p> <p>A 児 ホワイトボードに拍子譜を書いてリズムをつくる。</p> <p>B・C 児 自分で手を打ってリズムづくりをし、教師が拍子譜にした後、自分で「タン」「タタ」「ウン」を書いて確認する。</p> <p>D・E・F 児 予め2小節分に区切られたホワイトボードにリズムカードを入れてリズムづくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれつくったリズムを実際にリズム打ちをする。 ・つくったリズムを友達に紹介する。 友達のつくったリズムを拍子譜または絵譜を見ながらリズム打ちをする。 ・曲『手のひらを太陽に』に合わせてつくったリズムを使ってリズム打ちをする。 <p>※A 児は、曲に合わせてコンガを即興的に演奏する。</p> <p>6. 本時の活動を振り返り、次時の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想を言う。 <p>7. 終わりのあいさつをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○「タン」、「タタ」、「ウン」を口で言わせながら、拍子打ちするよう声かけをする。 ○一人がつくって打ったリズムを教師が確認して打ち、一斉に模倣してリズム打ちをする。 ●B 児、C 児には、目の前でリズム打ちをして見せる。 ○1小節に4分音符が4つ分しか入らないことを意識させるよう言葉かけをする。 ●B 児・C 児には、音楽に合わせて作ったリズムを忘れないように教師と一緒に模倣してみせる。 ●D・E・F 児には、曲に合わせてリズム打ちできるよう2小節に入りきれぬ拍の数のリズムカードを、種類ごとに分けて渡すようにする。 ○既習の「タン」「タタ」「ウン」の3つを入れてリズムづくりをするよう言葉かけを行う。 ○難しいリズムの時は、教師と一緒にリズム打ちしたり、声かけをしたりして助言する。 ○楽しんでリズムづくりができるように、つくったリズムを賞賛する。 ○みんなが作ったリズムを合わせて、合奏することを知らせる。 |
|---|--|